

令和6年度 大分大学総合型選抜入試問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 心理学コース

解答時間 90分
配 点 200点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和6年度(2024年度)
大分大学福祉健康科学部 総合型選抜入試問題
福祉健康科学科 心理学コース

問題 次の文章は、エンパシー(※)について「他者の靴を履く」という表現を使って論じた著書の一部である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「ミラーニューロン」は1990年代にイタリアの科学者たちによって発見された。サルは脳内の、手や指を動かす神経がある場所に電極を刺して実験していたところ、研究者が手で何かをつかむ作業をしていたときに、サルはまったく手を動かしていないにも拘わらず、サルの脳内で何かをつかむときに命令を出す神経が反応していたという。つまり、目で見た動作を自分の脳内で「鏡」のように再現していたのだ。

(中略)

つまり、脳内でミラーリングする相手が限られていたり、少なかったりすれば、他者の行動の理解や今後の見通しをつける力も育たないということになる。まさにミラーニューロンこそ、エンパシーという能力を理解する上での鍵になるのではないかと、様々な人が考えたくなったのも道理である。

しかしながら、やはりここでも異を唱える人々が出て来た。『反共感論』のポール・ブルームも、ミラーニューロンを過大評価することの危険性を指摘している。彼は、ミラーニューロンの機能には、サルが他者の行為を観察しながら自分も身体を調節してものを操ることを習得させる働きはあるが、この「自己と他者の区別をしない神経システム」に人間の共感能力を説明させることには無理があると言う。

彼の議論で面白いのは、ミラーニューロンの機能(つまり、シミュレーション)の限界を、「そもそも他者は自分と同じであると仮定されている」ところだと喝破している点だ。つまり、人の好みや性格は様々な異なるので、たとえテーブルの角で頭を打った人を見て自分まで痛い気分になったとしても、打った人はふだんからプロレスか何かをやっていて、そのぐらいの痛みは屁とも思わない人かもしれないし、チョコレートケーキを食べている人を見て自分まで幸福な気分になったとしても、食べている本人はチーズケーキのほうが良かったという不満を感じながら食べているかもしれない。

ポール・ブルームは、「私たちは自分をモデルに他者を理解しようとするがゆえに、世界には不幸(と、もらってもうれしくない誕生日のプレゼント)が絶えないのである」と端的に書いている。これなどは読みによっては「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」というマタイ福音書の言葉に真っ向から挑んでいる。

確かに、「自分が人にしてもらいたいと思うこと」は「他人が人にしてもらいたいと思うこと」とは違うものだ。なのに、それらは常に合致するものだと思いついたときに様々な不幸が生まれるという考察はけだし正論である。被害者になり代わって勝手に容疑者にリベンジしに行く人などがでてきてしまうのも、自分のように他者も感じているはずだと「他者を自分と同じものと仮定」した結果だとすれば、ミラーニューロンは実は他者の靴を履くどころか、他者に自分の靴を履かせるものにもなりかねない。

ポール・ブルームのみならず、他者の行為を真似る脳の機能が、そもそもエンパシーの説明に結び付くのかということに疑問視する人々は少なくない。確かに、物を指でつまむとか、サイドステップを踏むとか、そういう肉体的な動きなら脳内でのミラーリングで自分も同じ動作をできるようになるかもしれないが、人が悲嘆や喜びを表しているところを見ても本人と同じぐらいに悲しくなったり嬉しくなったりすることは決してないし、悲しそうな顔をしていても内心笑っているとか、喜んでいるふりをしているが内心では口惜しくてしかたないとか、そうした人間の複雑さは模倣し合うだけではわからない。

むしろ、わかった気になることによる弊害が引き起こす問題は、まったく他者のためにならない方向に行く可能性もある。自分自身を他者に投射するということは、他者を「自己投影するためのオブジェクト」としてしか見なさないことにもなり、自分自身から「外れる」どころか、他者の存在を利用して自分を拡大していることになる。

※エンパシー...著者は作中で、エンパシー (empathy) の意味を『Oxford Learner's Dictionaries』のサイト oxfordlearnersdictionaries.com で確認したところ、「他者の感情や経験などを理解する能力」と書かれていると述べている。

(出典：ブレイディみかこ、『他者の靴を履く アナーキック・エンパシーのすすめ』、文藝春秋、2021年より抜粋・一部改変)

問1 下線部についての著者の考えを300字以内(句読点を含む)で述べなさい。

問2 文章全体をふまえた上で、「共感すること」に対するあなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。